名古屋市立図書館逢左文庫蔵　沿海地図小図

折本一舗。題は大日本沿海里程測量図。尾張徳川家の重臣・大道寺直寅の用人水野正信が写したもの。直寅は城代家老などを勤めた。正信は世間の最新情報に関心が強く、文政元年から、明治元年までの間、「青窓紀聞」二〇四冊をはじめ、五〇〇冊の写本を残した。

ペリー来航時、大道寺は尾張藩の海防御用取り扱いであったので、関連して集めた資料を多く写している。沿海地図小図はその資料群のなかの一つで、自ら写したと思われる。地図は専門外なので、写図は粗であるが、沿海小図の形式は備えている。

針穴は当然ない。経緯線もない。描図範囲は沿海小図と同じ。吉田勇太郎の識語、忠敬の凡例、里程表三表も写す。裏打ちなし。細かい和紙を張り合わせている。文字は稚拙、記号を手書きするので変形が多い。記号の位置は場所によりまちまち、湊記号なし。郡界●も少ない。宿場〇、天測地点☆はよく書いているが、朱の測線の間に書いたものがある。虫所々にあり。

山景の緑は山の先端を少し染めるのみ。河川は、濃い水色で過大に表現、特に利根川、富士川、阿部川、大井川など。本州中部に描くコンパスローズは可成りの手抜き。方位線は、富士山二七本、蝦夷大嶋八本、蝦夷小嶋八本。北海道、津軽半島、下北半島、三陸沿岸の沿岸部を黄色で染める。黄色は砂浜の表示であるが、勘違いして途中まで描いたがやめたのであろう。

専門外であるが、沿海地図の評判を聞いて、とにかく内容がわかればよいとして写したものか。しかし原図を陪臣の家来がどうやって借り出したのであろう。そちらのほうも興味がある。

縦二三六センチ×横九五センチ　（一九九六・二・一七　調査）